

日本学校ソーシャルワーク学会 第10回記念全国大会 大会要項

2015.07.04(SAT),05(SUN)

福岡国際会議場 〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1
<http://www.marinemesse.or.jp/congress/>

大会テーマ
学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の新たな展開
～10年目の起点～



主催 日本学校ソーシャルワーク学会 共催 福岡県スクールソーシャルワーカー協会
後援 福岡県教育委員会 福岡市教育委員会 北九州市教育委員会

ご挨拶

日本学校ソーシャルワーク学会は、2006年3月に発足しました。当時はいくつかの自治体にてスクールソーシャルワーカー事業が開拓的に始動し始めていましたが、今後の発展を踏まえ学校ソーシャルワーク実践研究を活性化させる必要性から学会を設立しました。

学会発足10年目を迎え、その間、2008年度には国の「スクールソーシャルワーカー活用事業」が開始し、学校ソーシャルワーク実践の必要性も小・中学校のみならず、高等学校やさらには大学にまで広がっていきました。また、子どもの貧困対策としてスクールソーシャルワーカーの増員が図られようとしています。

しかし、10年目の起点として、特別支援教育における学校ソーシャルワーク実践の必要性を研究及び検証していくことが求められています。スクールソーシャルワーカーの発祥地アメリカでは、1975年の全障害児教育法の制定においてスクールソーシャルワーカーがソーシャルワークサービスの提供者として位置づけられました。教育と福祉の協働を要する特別支援教育の子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践は必要であると考えます。

そこで、10周年記念大会では、学校ソーシャルワーク実践の動向を振り返るとともに、今後の展開として特別支援教育に焦点をあてていきたいと考えています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしております。

日本学校ソーシャルワーク学会代表理事
第10回記念全国大会実行委員長
門田 光司 (久留米大学)

大会プログラム

2015.07.04 (SAT)

大会事前企画 ～基礎研修・専門研修～ ※受講者には証明書を発行

TIME	PLACE	SUMMARY
9:30	5F ロビー	受付開始
9:50	502	<p>A) 基礎研修</p> <p>「スクールソーシャルワーカーに求められるもの ～学校現場が期待するスクールソーシャルワーカー～」</p> <p>講師: 丸山 涼子(大阪府寝屋川市立和光小学校元校長) 森原 清(山口県周南市立和田中学校校長) コーディネーター: 佐々木 千里(京都市教育委員会等SSWスーパーバイザー、日本学校ソーシャルワーク学会理事)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研修のねらい</p> <p>いじめや子どもの貧困への対応策として、今後はより多くのスクールソーシャルワーカーが学校現場で活動し始める状況にあります。スクールソーシャルワーカーの効果的な活用のためには、学校が「スクール(学校) ソーシャルワーク」を理解することが重要とされていますが、同時にスクールソーシャルワーカーの側も「学校」を理解し、子どものためにより良い教育活動をめざす「学校のニーズ」に応えるべく、現場で役立つ力を身につけておかななくてはなりません。</p> <p>10周年記念の本大会の基礎研修では今一度基本にもどり、学校運営の立場から「学校現場が期待するスクールソーシャルワーカー」について語っていただき、あらためて「スクールソーシャルワーカーに求められるもの」について考え、学びを深める機会としたいと思います。</p> </div> <p>【受講資格】特になし (※非会員の参加可) 【定員】80名 (※先着順) 【受講料】1,000円</p>
11:50	503	<p>B) 専門研修</p> <p>「服薬する子どもとその保護者への対応」</p> <p>講師: 原田 剛志 (パークサイドこどものこころクリニック院長精神科医) コーディネーター: 比嘉 昌哉(沖縄国際大学准教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研修のねらい</p> <p>学校ソーシャルワーク実践において困難事例の一つをあげるとするならば、子どもが服薬を必要とするケースではないでしょうか。服薬を要するケースでは、校内での支援にとどまらず、医師をはじめとする医療機関等との連携をもとに支援を進めていかなければなりません。本研修では、服薬する子ども本人やその保護者への支援を考えていきます。児童精神科医である原田医師が日々の実践を通して、医療や服薬に対して先入観や偏見をもつ当事者(子どもや保護者)へどのように関わり(治療・支援)を行っているのかについてわかりやすく解説します。具体的には、「子どもの薬をどのように保護者に伝えるか」「保護者らの抱える偏見への対応」等について学ぶ機</p> </div> <p>【受講資格】学会員(※非会員の参加不可) 【定員】50名(※先着順) 【受講料】1,000円</p>

<研修への受講申込方法>

申込期限までに、参加申込書(別添)を大会事務局にFAXまたはメール(PDF)で送信していただくか、受講申込メールを送信(※1)のうえ、大会参加費の振込時に、「〇〇研修受講料 1,000円」と明記して、他の参加費と併せて指定口座に入金してください。

※1) 申込専用 Email k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp

2) メール内容 ①件名: 〇〇(基礎もしくは専門)研修申込、②本文: 氏名、所属、連絡先(住所および連絡可能な電話番号)を明記してください。内容に不備がある場合は受け付けない場合がありますのでご注意ください。

【注意】

基礎研修、専門研修ともに定員に達した段階で募集を終了します。そのため、期限内に申し込みをされた方でも受講できない場合があります。大会事務局または学会ホームページ等で募集状況を確認のうえ、受講申込を行ってください。

本大会初日 ～開会式・基調報告・大会シンポジウム他～

TIME	PLACE	SUMMARY
12:50	5F ロビー	受付開始
13:10	国際会議室 501	開会式
13:20		基調報告A 「学校ソーシャルワーク実践の動向～全国調査結果の報告～」 報告者
14:20		土井 幸治（志免町教育委員会スクールソーシャルワーカー） 岩田 美香（法政大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事）
14:30		基調報告B 「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る ～福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して～」 報告者
15:10		奥村 賢一（福岡県立大学准教授、日本学校ソーシャルワーク学会事務局長、 福岡県スクールソーシャルワーカー協会副会長）
15:20		大会シンポジウム 「特別支援学校における学校ソーシャルワーク実践の必要性」 シンポジスト
17:10	松原 太洋（福岡県立福岡高等視覚特別支援学校校長） 樋口 陽子（北九州市小倉南特別支援学校統括コーディネーター） 下田 学（九州工業大学キャンパスソーシャルワーカー） コーディネーター	
17:20	門田 光司（久留米大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会代表理事）	
17:20	年次総会	
18:00	1F レストラン	情報交換会 福岡国際会議場 1F レストラン RACONTER（ラコンテ） 立食パーティー形式（定員80名 ※先着順） 〈注意事項〉 申し込みは事前予約のみの受付となります。 定員に達した時点で募集を締め切ります。
20:00		



2015.07.05 (SUN)

本大会2日目～口頭発表・課題別分科会～

TIME	PLACE	SUMMARY
9:00	4F ロビー	受付開始
9:30 12:00	401,402 403,404 405	口頭発表(研究発表・実践発表) ・口頭発表は、「研究発表」と「実践発表」に分けて実施します。 ・発表時間 20分 質疑応答 15分 計35分 ・発表申込締め切り 5月25日(月) 必着 ※申込方法は、下記(7.口頭発表)の応募要領をご確認ください
		昼休憩
13:30		課題研究分科会 <重要> 参加申込み受付順に第1希望の分科会へと振り分けていきます。ただし、ご希望の分科会が定員に達した場合は、大会事務局の方で第2希望、または第3希望の分科会に振り分けさせていただきますことを予めご了承ください。大会への事前参加申込手続きの完了はなるべくお早目にご協力をよろしくお願いいたします。
	401 【定員 50名】	第1分科会「児童生徒のいじめや校内暴力への対応を考える」 話題提供者 早田 宗生 (熊本県教育委員会義務教育課参事) 大松 美輪 (大阪府教育委員会チーフ・スクールソーシャルワーカー) 藤林 武史 (福岡市こども総合相談センター所長) 指定討論者 野田 正人 (立命館大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会副代表理事) コーディネーター 久能 由弥 (北星学園大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事)
		【趣旨】 いじめ防止対策推進法制定以降、いじめの被害者への対応に加えて、加害者への対応や、日常的に暴力をふるう児童生徒への指導・支援の強化が求められ、スクールソーシャルワーカーへの期待が高まっています。この分科会では、いじめの加害行動や問題行動について、ミクロからマクロまでを視野に入れ、どのように理解し、支援し、連携していくかを考えたいと思います。 今回は、学校のとらえた問題行動についてどのような対応をとる必要があり、実際にとり得るのかについて理論的整理を行ない、具体的な対応として、学校や教育委員会、児童相談所や家庭裁判所などのなすべきことを明らかにし、それを生かす形でのSSWとしての活動のあり方について、フロアを交えて議論していきたいと思います。
	402 【定員 50名】	第2分科会「子どもの貧困対策とスクールソーシャルワーカー」 話題提供者 安部 計彦 (西南学院大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄地区世話人) 徳成 晃隆 (福岡市教育委員会教育支援部長) 梶谷 優子 (福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー) コメントーター 岩田 美香 (法政大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事) コーディネーター 高良 麻子 (東京学芸大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事)
15:30		【趣旨】 子どもの貧困が深刻化する中、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が平成25年に制定されました。そして昨年、子どもの貧困対策を総合的に推進するために、「子供の貧困対策に関する大綱」が策定されています。 この大綱では、「学校」を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置付け、総合的に対策を推進することがひとつの方針として掲げられています。ここでは、貧困家庭の子どもたちを早期に福祉等につなげることや、家庭への支援等がスクールソーシャルワーカーに期待されています。 このような状況下、スクールソーシャルワーカーはどのような役割を果たすことができるのでしょうか。また、その専門性を活かし、どのような役割を果たすべきなのでしょうか。貧困対策が学校・教育に重点化されている前提も含め、多様な視点から検討する機会にできればと思います。

<p>403 【定員 50 名】</p>	<p>第 3 分科会 「生活の困窮と学習支援～夜間中学校や定時制・通信制高校の取り組みから～」</p> <p>話題提供者 田上 麻衣子（福岡県立博多青松高等学校スクールソーシャルワーカー） 肥下 彰男（大阪府立今宮高等学校教諭） 関本 保孝（元夜間中学教員・「えんぴつの会」・「ピナット」学習支援ボランティア）</p> <p>コメンテーター 山野 則子（大阪府立大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事）</p> <p>コーディネーター 鈴木 庸裕（福島大学教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事）</p> <p>【趣旨】 これからの生活困窮や生活保護の支援法制との関わりから、高校（定時制・通信制を含む）を実践の場とするソーシャルワークの役割やその実践的意味について考えます。 「もし、もっと早い段階で寄り添ってくれる人や居場所があればよかったのに」という高校現場の苦悩の声は、学校教育から実社会への結節点を保障するというものみならず、高校以前の教育活動を私たちが振り返る「内省」の根拠となります。高校段階のソーシャルワーク実践は今後のスクールソーシャルワーカーの取り組みに与える影響は大きいと考えます。本分科会では、生活困窮者自立支援制度による高校生の学習支援や就労準備、就労訓練の事業と高校実践の現状と、教育福祉や学校におけるソーシャルワークの歴史的原点の1つとなる夜間中学校の今日的現状から、生活福祉に根ざした学校ソーシャルワークの課題を掘り下げたいと思います。</p>
<p>404 【定員 50 名】</p>	<p>第 4 分科会 「学校ソーシャルワーク実践におけるコンサルテーションの意義と課題」</p> <p>話題提供者 児玉 聡（福岡市立吉塚小学校教頭） 梅山 佐和（京都市教育委員会スクールソーシャルワーカー） 岩井 佑美（熊本県教育委員会スクールソーシャルワーカー）</p> <p>コメンテーター 岩永 靖（九州ルーテル学院大学准教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事）</p> <p>コーディネーター 佐々木 千里（京都市・静岡県教育委員会等スクールソーシャルワーカースーパーバイザー）</p> <p>【趣旨】 教員へのコンサルテーションは、スクールソーシャルワーカーの日常的な業務の一つであり、学校へのアプローチとして重要な意味をもっています。しかし、スクールソーシャルワーカーの側には、これはコンサルテーションだと意識している人もいないでしょうし、あまり意識せずにコンサルテーションを行っている人もいるかもしれません。もしかしたらそれぞれ捉え方にも違いがあるのかもしれません。 そこで、本課題研究では、学校ソーシャルワーク実践におけるコンサルテーションがより効果的であるよう企画しました。スクールソーシャルワーカーとコンサルティである教員それぞれの立場から話題提供をしていただき、コンサルテーションの意義、学校のニーズに適したコンサルテーションの共通項、コンサルテーションの実践上の課題等について、フロアとともに議論を深めていきたいと思っています。</p>
<p>405 【定員 50 名】</p>	<p>第 5 分科会 「特別支援教育と学校ソーシャルワーク」</p> <p>話題提供者 和田 俊人（岐阜県教育委員会特別支援教育課長補佐兼特別支援学校整備係長） 山本 操里（宮城県大崎市・栗原市・南三陸町スクールソーシャルワーカー）</p> <p>コメンテーター 富島 喜揮（四国学院大学教授）</p> <p>コーディネーター 比嘉 昌哉（沖縄国際大学准教授、日本学校ソーシャルワーク学会理事）</p> <p>【趣旨】 2007(平成19)年4月に、学校教育法等の一部改正が行われ、「特別支援教育」が本格的にスタートしました。従来の「特殊教育」の障害の種類・程度に応じた特別な場での指導から、一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援へと教育の考え方の転換が行われました。特別支援教育では、教育、医療、福祉、労働などの関係者や保護者と情報を共有し長期的な視点から支援を検討することになっています。特別支援教育の推進役として各学校には特別支援教育コーディネーターが配置されていますが、他の校務と兼務しながら行われているのが現状です。特別支援教育コーディネーターが、学校ソーシャルワークの視点を持って支援をするために必要なことは何か、あるいはスクールソーシャルワーカーと役割を分担し協働していくためにはどのような方法があるのか、などについて意見交換を行い議論を深めたいと思います。</p>
<p>15:30</p>	<p>終了</p> <p>※各分科会会場にて終了</p>

大会申込方法

1. 参加費

1) 研修

基礎研修（定員80名）：1000円

専門研修（定員50名）：1000円 ※会員のみ

注）両研修ともに定員となり次第、受付を終了いたします。

2) 大会（2日間）

会員：3000円（事前申込）、4000円（当日申込）

非会員：3500円（事前申込）、4000円（当日申込）

学生・院生：1000円（事前申込）、1500円（当日申込）

3) 情報交換会

参加費：4500円（会員・非会員・学生・院生）

※情報交換会は事前申込のみの先着順とし、定員（80名）となり次第、受付を終了いたします。

1)～3)の事前申込及び口座振込期限・・・**6月19日（金）**

※参加費は、下記の指定口座にお振り込みください。

<研修・全国大会・情報交換会の参加費払込口座番号>

【郵便振替】 日本学校ソーシャルワーク学会 01700-4-163825

※1) 郵便局振込用紙の備考欄に必ず入金内容（研修費・大会参加費・情報交換会費）、氏名、住所、所属、電話番号を記載し、上記の口座番号に振り込んでください。

※2) 他行等からの振込の受取口座として利用する場合

店名（店番）：一七九（イチナナキユウ）店（179）

預金種目：当座

口座番号：0163825

2. 昼食

お弁当などの注文は受付けておりません。会場1階のレストランをご利用いただくか、各自で準備をお願いします。なお、会場にて食事をしていただくことは可能です。ゴミ等については各自で処理していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

3. クロークについて

クロークは設けておりません。各自でお荷物は保管ください。

4. 託児所について

託児所は設けておりません。

5. 宿泊について

1) 宿泊の手配は大会事務局としては行いませんので、各自で手配頂きますようお願い致します。

2) 当日は人気アーティストのコンサートがヤフオクドームにて開催されますので、ホテルのご予約はお早め
にお願いいたします。

6. 交通アクセス

福岡国際会議場

FUKUOKA INTERNATIONAL CONGRESS CENTER

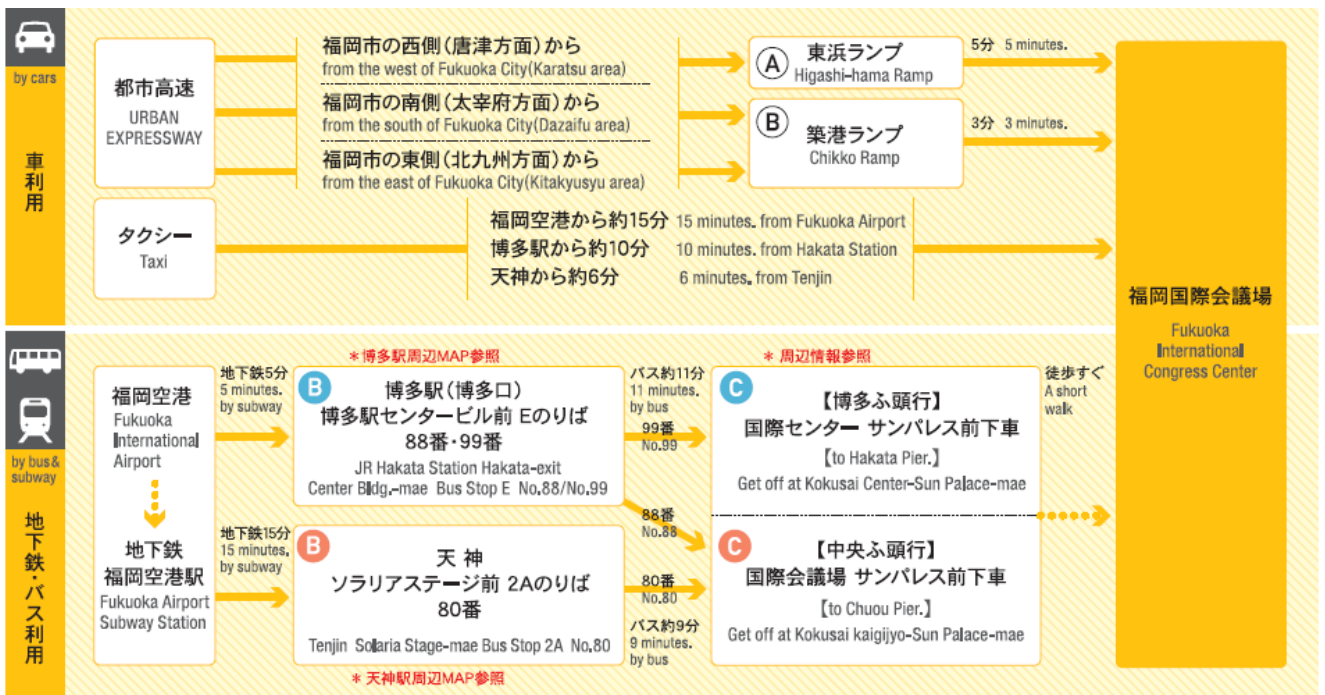


財団法人 福岡コンベンションセンター
FUKUOKA CONVENTION CENTER

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1

TEL:092-262-4111 FAX:092-262-4701

Fukuoka International Congress Center Administration Office Fukuoka Convention Center
2-1 Sekijo-machi, Hakata-ku, Fukuoka City 812-0032 Japan



7. 口頭発表（研究発表・実践発表）

口頭発表（研究発表・実践発表）の申し込みを希望する会員は、下記応募要領にて発表原稿を作成のうえ、5月25日（月）までにE-mailにて原稿データを大会事務局まで送付してください。

応募要領

1. 発表者の応募資格

- 1) 応募の時点で本学会の会員（2015年度までの学会費納入者）の資格を有する者。
- 2) 共同発表の場合は、応募の時点で1名でも1)に該当しない場合は、申し込みを受理することはできません。
- 3) 発表応募者（共同発表者を含む）は、6月19日（金）までに大会参加費の振り込みを完了してください。
※1) から3) の条件を充たさない場合は、発表を取り消すことがあります。

2. 発表の応募方法

- 1) 大会事務局まで参加申込書（別添）を大会事務局にFAXまたはメール（PDF）で送信していただくか、同様の内容をメール（k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp）にてお申し込みください。
- 2) メールで申し込みをされる場合は、①件名：口頭発表申込、②氏名、③所属、④連絡先（住所及び連絡可能な電話番号）、⑤発表種類（研究発表・実践発表）、⑥題目、⑦共同発表者氏名（単独の場合は不要）、⑧パソコン使用の有無を明記して送信してください。

3. 発表原稿（要旨）作成上の留意事項

- 1) 口頭発表は、1会員1演題に限ります。そのため、応募については必ず筆頭発表者が行うようにしてください。
- 2) 同一テーマによる発表は、「その（1）」「その（2）」までとします。ただし、内容が別の研究と認められる場合に限り、当日の発表においても、各々が独立した発表として行うため、時間を連続して発表を続けることはできません。
- 3) 口頭発表は、自らの研究の成果を発表する「研究発表」と自らの実践内容を発表する「実践発表」の2種類とします。発表応募者は、発表の種類を選択したうえで発表原稿を作成してください。
- 4) 要旨は学術的文献として公表されます。内容を十分に吟味したうえで、研究発表については、原則として、研究の目的、方法、倫理的配慮、結果、考察、結論等の各項に分けて記述してください。この形式で作成されていない発表原稿については、発表を認めない場合もあります。
- 5) 口頭発表の可否は、理事会の審査で決定されます。その際、要旨の内容により、発表の種類を変更してもらう場合があります。
- 6) 研究倫理上の問題がある発表や個人の著作販売を目的とする発表等は、発表後であってもそれを取り消す場合があります。
- 7) 口頭発表が決定した後、急なキャンセル等をされないように留意してください

4. 発表原稿（要旨）の作成要領

- 1) 原稿用紙
要旨は、A4版2ページで作成してください。字数は目安として、本文3,358字（23字×146行）となります。本文とは別に、文頭6行を題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを挿入してください。具体的な記載例は、下記「発表原稿の書式」を参考にしてください。なお、連名発表者がいる場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付けてください。また、本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載してください。
- 2) 図・表
図と表は最小限に止め、写真は使用しないようにしてください。
- 3) 事例
事例等の記述については、プライバシー保護の観点から、関係者からの承諾等の基本的な倫理規定を遵守してください。なお、要旨には倫理的配慮の内容を明記してください、記載内容が不十分な場合や記述がない場合は、発表が採択されないことがあります。

上余白 22 ミリ

題目 (主題)

題目 (副題)

氏 名

(所 属)

Key Words (3つ)

1行あける

*文字の大きさは10ポイント
を目安とする。

余白
20ミリ

余白
20ミリ

33行分

40行分

23字

23字

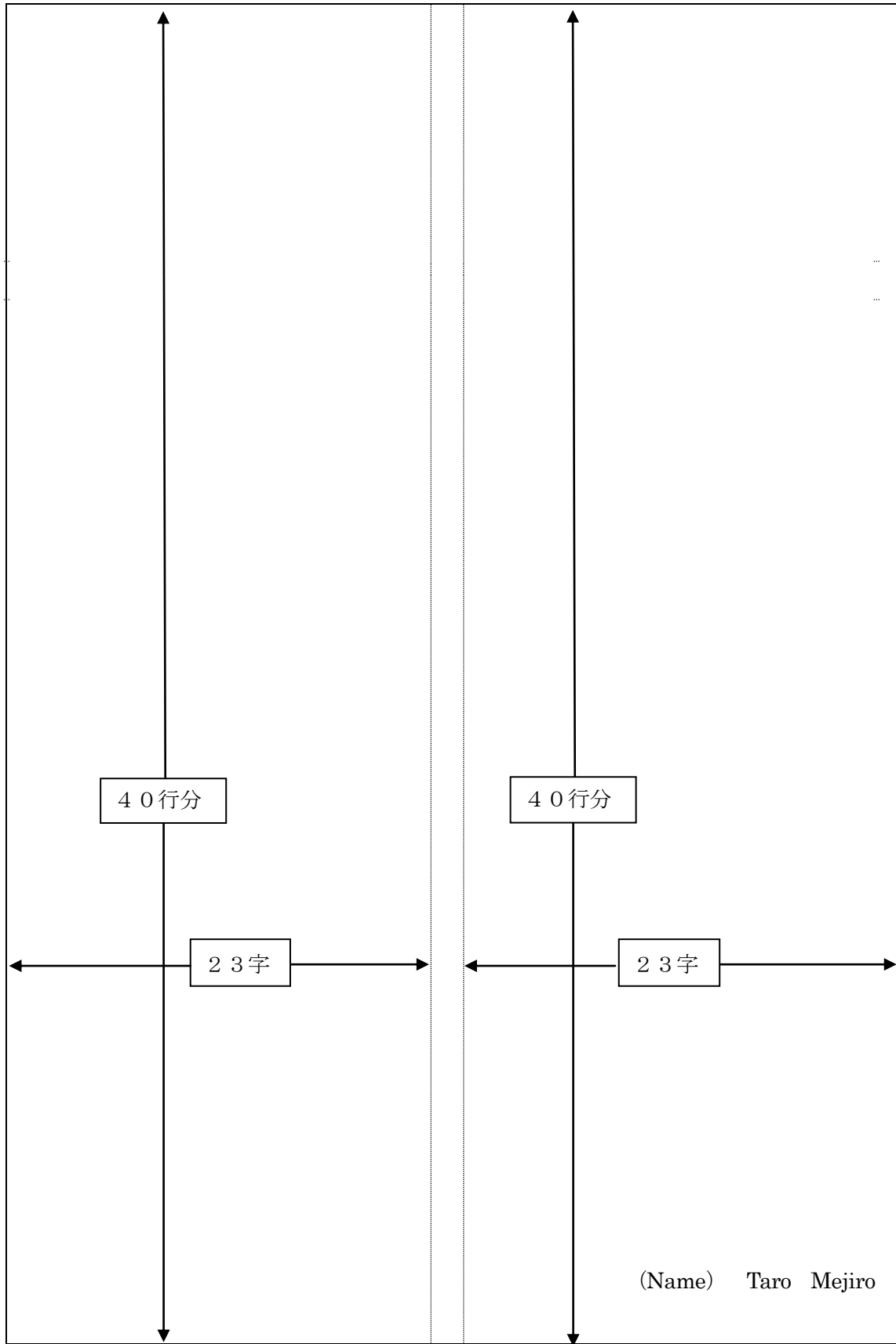
段間余白 7 ミリ

下余白 22 ミリ

上余白 22 ミリ

余白
20 ミリ

余白
20 ミリ



段間余白 7 ミリ

下余白 22 ミリ

5. 発表原稿（要旨）の送付方法

発表原稿は、Word で作成したものを大会事務局 (k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp)までメールで送付してください。
なお、PDF ファイルでは送付しないように注意してください。

日本学校ソーシャルワーク学会全国大会の足跡

- 第1回(2006) 東京・目白大学
- 第2回(2007) 大阪・大阪府私学文化会館
- 第3回(2008) 福岡・西南学院大学
- 第4回(2009) 東京・東京学芸大学
- 第5回(2010) 大阪・大阪府立大学
- 第6回(2011) 福岡・西南学院大学
- 第7回(2012) 香川・四国学院大学
- 第8回(2013) 福島・福島大学
- 第9回(2014) 京都・立命館大学

第10回(2015)福岡・福岡国際会議場



大会に関するお問い合わせ



第10回記念大会事務局

〒825-8585

福岡県田川市大字伊田4395番地

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科奥村賢一研究室（担当：奥村）

TEL & FAX 0947-42-1425

メールアドレス k.okumura@fukuoka-pu.ac.jp